

めざそう 障害児学校の増設！教室不足の解消！ゆたかな障害児教育の実現！！
よりよい障害児学校の設置基準策定

めざす会ニュース

2026年4月 15日 NO.1

**「設置基準」をいかにして
一刻も早く教室不足の解消を！**

署名提出 6万1347筆



4月3日に「障害児学校のよりよい設置基準を求め、豊かな障害児教育の実現をめざす会」は署名提出院内集会を開きました。解散総選挙が国会運営に影響したために、ひと月繰り下げての開催となりました。

紹介議員は選挙結果により、昨年度の82名から37名と大きく減ってしまいましたが、それでも当日は、めざす会の保護者・教職員らとともに、国会議員5人、代理秘書5名が参加してくださいました。

1、開会あいさつ 白井 道代（めざす会会長）



本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。特別支援学校に設置基準ができました。特別支援教育を必要とする子どもの数は、どんどん増加している現状があります。昨年12月のニュースで、18歳人口の文科省の統計調査において、特別支援学校の生徒が除外されていたという事実が分かりました。私たちの子どもが国民の一人として認知されていなかったことに、深く傷ついております。こういった国の姿勢をぜひ改めていただきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2、とりくみの経過 村田信子（めざす会役員）

2年に1度、文科省による教室不足調査が行われ、教室不足数が減ってきています。児童生徒が増えたために、現場がやむを得ず行っている「一時的な対応」は増えているにもかかわらず「特別教室の転用」「間仕切り」をしても「教育上支障がない」と判断した数は引かれるようになってきています。国には現場の正しい実態をしっかりと把握していただき、改善を促進するために、国庫補助率を3分の2へ引き上げて国の財政支援を強めてほしいというのが切実な私たちの要望です。国際的にもインクルーシブ教育が求められる状況にあります。私どもの願いは、地域に根差した小規模な特別支援学校を、専門性の高い教育を受けられる特別支援学校をたくさん設置していただきたい。インクルーシブ教育の観点でも、特別支援学校は必要だと思っています。今後とも、国会議員者のみなさんのお力添えを、どうぞよろしくお願いいたします。

3、議員あいさつおよび署名提出

①【立憲民主党 参議院議員 横沢 高德】

設置基準が設定されてから約3年間、新規の学校は新たな動きが生まれたものの、すぐいっぱいになってしまう。既存の特別支援学校の環境もなかなか進まな



いという状況であります。医療的ケアが必要な子どものことも、しっかりと国の方で予算措置が進み、豊かな障害児教育の実現に向けた、取り組みが一步でも二歩でも前進するために志を共にする議員の皆様とこれからも汗をかいてまいりたいと思います。

②【日本共産党 参議院議員 白川 容子】

兄が進行性筋ジストロフィーという難病を抱えて車いすの生活でしたので、特別支援学校のいろんなところにお邪魔させていただいたり、ボランティアでお邪魔させていただいたりということを経験してきました。香川の特別支援学校を回らせていただいて、見に行くと教室が不足をしていて、カーテンで仕切っている学校もありました。また小豆島でも特別支援学校がほしいというご意見もあって、住民のみなさんの運動で、特別支援学校を分校的に作ったということもありました。全国的にどこで暮らしていても心配することなく、しっかりと子どもたちが学べるという、そういう環境を整えていきたいと思っています。



③【日本共産党 参議院議員 吉良 よし子】

昨日立憲民主党の議員が、教室不足、パーテーションで仕切ったりしている実態があると質問したところ、文科省の初等中等局長からは、「パーテーションで、一つの教室を仕切ることのみをもって直ちに教育に支障があるとは言えない」「各学校、現場のご判断、工夫だ」という答弁をしていた。必要な教育が十分にその子一人一人に行われているとは到底言えない状況が起きているわけであって、改善解消していくのが政治、文科省の責任じゃないですか。インクルーシブ教育が言われていますが、特別支援学校だからこそできる教育、子どもが成長できたという保護者の皆さんの声を聞いている。隔離がダメなら遠くにしか特別支援学校がない状況を改善して、町の中にどんどん作っていけばいいし、もっと人を増やさなきゃいけない。去年の給特法では、みなさんの「給料の調整額」を引き下げるという、ありえない改悪を行ったわけだが、それではインクルーシブ教育が遠のくばかり。ちゃんと給料を保障して、学校の教室も増やしていくよう力を合わせて声を上げていきたいと思っています。共に頑張ってみましょう。



④【日本共産党 参議院議員 山添 拓】

私は父が教員だったので、その当時から特別支援学級、特別支援学校で勤める先生たちは本当に大変だという話も聞いておりました。設置基準を作らせるにあたって長年の取り組みがあり、私たち国会議員の側の取り組みとしては、共産党の山下芳生議員が国会の予算委員会でテレビの入った質疑、対総理との質疑でこの問題を取り上げ、(当時の安倍首相から「教室不足を放置するつもりはありません」という答弁を引き出した質疑) その後、進むことにもなり、やはり運動と、国会の中で論戦を通じて動かしてきた問題だと思っています。設置基準を作ったけれどもまだまだというところかと思っていますので、引き続き粘り強い取り組みが大事だと思います。引き続きよろしくお願いします。



4, 代理秘書の紹介

中道改革連合 神谷 裕 / 国民民主党 芳賀 道也 / 立憲民主党 森 ゆうこ
日本共産党 塩川 鉄也 / 日本共産党 辰巳 孝太郎

5, 各地の状況と議員への要請

【東京保護者：榮さん】

この短い春休みの間に、更衣室や準備室に新しい教室らしき教室をつくるための設備が、急ピッチで進められている。保護者の目が届かないうちに一斉に工事していると思う。毎年小学部一年生の教室には白い壁がきれいに立つ。特別支援学校に通うと、小学部1年生から高等部卒業までずっと白い壁を見ながら、その壁をいつも作られながら成長していく。かわいそうにと思うのは先輩保護者であって、当の小1の子どもたちも保護者もこんな小さな部屋が普通だと思っている。それは努力義務の学校だから。設置基準の適用された学校を、ぜひみんなにも見てほしい。住んでいる場所と選んだ学校が違うだけで環境が違ってしまうというのは、公教育としてどうなのかなと思う。子どものため、子どもの権利のため、子どもの代わりになんていつもこういう場に出てきている。これからもよろしくお願いします。

【東京教員：咲川さん】

はっきり言います。パーテーションで教育をするのは支障があります。声も出さず、音も出さず、迷惑をかけないように、それがまともな教育の場所なのか、違うと思っている。仮校舎で建て替えの途中だが、プールない、体育館ない、運動場ない、教室はパーテーションで仕切られていて大変不便。仮校舎だから仕方ないでしょと、本校舎が建つのを心待ちにしている。東京都はこれから新設校がどんどんできる計画はあるが、それが延期になるのではとすごく心配している。教室不足というのは、学校が建てば解消する。予算の方もいっぱいいただいて、早く建ていただきたいというのが、私たちの教職員組合、教員、そして生徒たちの保護者の要望です。どうぞよろしくお願いいたします。

【埼玉教員：牧野さん】

埼玉では、2013年度以降の12年間で、知的障害の学校の子どもの数が1.5倍以上、2700人増えている。新しい学校が3校、分校が10校作られているが、想定規模は1300人。2700人増えて1300人だから、この間だけで1400人分の学校教室不足が進行したことになる。大規模増改築の結果できる学校というのは、400人の超大規模校。体育館、プール、特別教室が3倍、4倍になることはありえないので、教育環境はどんどん悪化している。また、学級数が増えるほど、教員数は相対的に少なくなっていくしくみなので2000年の頃と比較すると、埼玉県の特設支援学校の教員が1人当たりが受け持つ生徒の数は1.2倍ぐらいになっている。努力はしても一向に追いつかない現状、それはやはり財政的なものが大きい。そのため国庫補助を大幅に引き上げていただくことを強く願っている。お力添えをよろしくお願いします。

【神奈川教員：村田豊さん】

神奈川は全国に先駆けて設置基準を策定した段階で、設置基準を既存校にも当てはめてどれぐらいの学校数が足りないのかという試算も踏まえた上で、2校1校舎を増設と決定した。早くに決定したができるのは2032年。指針を決めてから10年かけて、やっと新しい学校が出来上がると。この間に何が起きているかと言っていると、特別教室を普通教室に転用する。もうパンクを通り越している。小中学校、高校が廃校になっても売却の方がより有利であるということで、売却優先で特別支援学校の設置が後回しになっている。補助率を3分の2へ引き上げることは、特別支援学校を作るベクトルに変えていくためにも必要な施策だと思いますので、国がそこに力を尽くしていただきたい。ぜひ今後もご尽力いただきたいと思います。



【長野障教組：山崎さん】

交渉の際に使った資料になるが、各学校の老朽化等を見ていただきたい。毎年少しずつ改善してもらっているが、いまだに雨漏りしている学校もある。学校設備の老朽化が著しく、また教室不足もなかなか改善されない実態がある。パーテーションも、業者に頼むのではなくて、先生が作ったパーテーションや、段ボールでパーテーションをつけている学校がある。スクールバスでは隣の子に手が出てしまう子がいて手立てが必要。電気屋でもらってきた段ボールを使ってパーテーションを手作りしている。安全に送迎できなかったり、授業できないという状況が今の学校にはある。先生のスペースもどんどん少なくなって、生徒の机を職員室で先生が使っている。パソコン作業をするのも前かがみになり腰が痛くなったりする。女性ロッカーも扉をあけたら通れない。プールや入学式の際は混み合って、隣の先生がいるから行けないとか、そういう状況が生まれているということを聞いている。学校規模の基準を設ける改善をぜひお願いしたいと思います。

はじめておこなった質疑・意見交流の時間では……質問がだされ、参加者で回答し懇談しました。

Q（吉良議員）大規模化が進む中で職員さんのスペースも足りないというのは深刻な事態。大規模校の職員の労働環境の問題点がもしあれば、ぜひ教えていただきたいです。

Q（白川議員）職員室にも設置基準が必要ですね。香川でも職員室が廊下に設置され、椅子や机を並べていた学校がありました。玄関ホールで授業という写真はどこの県ですか。

Q（山添議員）場所によっては、新しくマンションが建設されている中で特別支援学校については対応が後手後手になっていくということになるのかと思う。学校や当局はどう対応をしていこうとしていますか。

⑤【日本共産党 衆議院議員 畑野 君枝】最後に到着され署名をお渡ししました。

みなさん、実態を訴えてくださってありがとうございます。4年ぶりに国会に戻ってまいりました。みなさんとともに毎日頑張ります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



2025 年度の署名

国会に当日提出した数 6万1371 筆

そのあとも全国から届けられ **6万1449 筆** となりました（4月13日現在）
（2024 年度 5万7284 筆）

ご協力して下さった、全国のみなさん、ありがとうございました。

2026 年度も、保護者さん、地域の団体などと共同した署名のとりくみを広げましょう！

メモ この署名提出集会の1週間後、4月10日に文科省が「公立特別支援学校教室不足調査」結果を公表しました。子どもが増えたことに伴う「一時的な対応」は7933か所（前回7476か所）と457増えているにもかかわらず、不足教室数は3192（前回3359）と167減りました。これは「教育上支障がない」と判断した件数が増え、不足教室数にはカウントされていないことによります。

各県ごとの教室不足数が明示されています。教育委員会に、それぞれの都道府県内の既存校の1校ずつの不足数の情報提供を求めるなど、ひきつづきのとりくみをしていきましょう。

★障害児学校のよりよい設置基準を求め、豊かな障害児教育の実現をめざす会

連絡先 全日本教職員組合障害児教育部 03(5211)0123